

背景と論点

道具は教育現場に大きな影響を与えます。歴史をふりかえるとこれは明らかです。活版印刷技術は教科書や文献などを学生全員に配布することを可能にし、ビデオ機器は授業の中に映像を取り入れることを可能にしました。インターネットやメールなどのICT（情報通信技術）もまた、授業の形態をより発展させる可能性を秘めています。

日本の大学においても、すでに多くの教員がICTを活用してさまざまな授業を実践しています。しかし、新しい技術を単に授業に導入して自動的に授業がよくなるわけではありません。ただ使用しただけで、もしかしたら学習効果を低下させることにもなりかねません。ICTの技術の特性をうまく活用してこそ、授業を大きく改善することができます。

実践の手法

1. 教室空間を超えて学生と接する

- ・ メールを書くときは、学生に個人の名前で呼びかける
- ・ 学生に自分のメールアドレスを公開し、メールによる質問を受けつける
- ・ 授業に関連する新聞記事の閲覧、テレビ番組の視聴をメールで呼びかける
- ・ 教員自身の研究成果がわかるウェブサイトを紹介する
- ・ 掲示板への書き込みがしやすいように教員から呼びかけの書き込みをする
- ・ 早い時期に教員の期待を伝えるウェルカムメールを送る
- ・ 授業のウェブサイトを利用して、定期的に授業関連情報を発信する

2. 学生間で協力して学習させる

- ・ 初回の授業終了後に掲示板で自己紹介をさせる
- ・ メールによる質問には掲示板やメーリングリストを使って全員にフィードバックする
- ・ 学生のグループで利用できるメーリングリストや掲示板を設定する
- ・ グループの学習成果をインターネット上に公開する
- ・ 教室でのディスカッションの前に掲示板を使って事前のディスカッションをさせる
- ・ 掲示板でのディスカッションの口火を切る学生の勇気をほめる
- ・ 学生間で各自の学習成果に対して掲示板でコメント・評価し合う機会を設ける

3. 学生を主体的に学習させる

- ・ 掲示板に学生の学習計画を書かせる
- ・ 学生に課題文献の書評を書かせて掲示板に投稿させる
- ・ 学生の学習に有用なサイトやメーリングリストを紹介する
- ・ インターネット上で公開されている優れた教材を学習活動に取り入れる
- ・ フィールドワークと組み合わせる等、コンピュータの前だけでは完結しない課題を出す
- ・ 試験では使用しないサンプルテストや練習問題をウェブサイトに公開する
- ・ オンラインテストを利用して、合格するまで何度でも受け直させるテストを用意する

4. 学習の進み具合をふりかえらせる

- ・ メールによる質問に対しては2日以内などできるだけ早く返事をする
- ・ 授業についていけない学生や欠席の多い学生にメールで連絡をとる
- ・ 定期試験の終了後、多くの学生が間違えた問題の解説をウェブサイトで公開する
- ・ メールを利用することで、学生のレポートへのコメントを素早く返し、推敲させる活動を取り入れる
- ・ 授業を録音・録画して公開し、学生の予習や復習に活用させる
- ・ 学生に学習成果をまとめたポートフォリオのサイトを作らせる
- ・ 学習状況や成績の分布を知らせることで、個々の学生がクラスの中での位置を把握できるようにする

5. 学習に要する時間を大切にする

- ・ 学生に週に最低2回はメールや掲示板を確認するよう伝える
- ・ 掲示板での標準的な発言回数を示す
- ・ 授業の開始時に授業の計画と課題の締切を一覧にして示す
- ・ 課題の締切が近づいたら、締切を知らせるメールを送る
- ・ ディスカッションが发散しそうな時は、論点を整理するような発言をする
- ・ 学生が予習・復習できる教材をウェブサイトに用意し、授業時間外の学習を促す
- ・ 授業で使用する教材を授業開始までに印刷して持ってくるよう指示することで、多人数への資料配布を時間短縮する

6. 学生に高い期待を寄せる

- ・ 授業内容の延長上にある最先端の研究に関するサイトを紹介する
- ・ コンピュータの操作ができるだけでは、高い成績につながらないことを伝える
- ・ 学習成果をインターネット上で公開すること伝え、より広い読者のために書くということ意識させる
- ・ 他人の著作物を尊重することの大切さを伝え、インターネット上の情報をどのように引用したらよいかを示す
- ・ 学外の専門家に学生の成果に対するコメントを依頼する
- ・ 授業で使用した文献の著者が知り合いの場合は、クラスでまとめて感想や質問を送る
- ・ 発展的な学習内容をウェブサイトに用意し、意欲のある学生に取り組ませる

7. 学生の多様性を尊重する

- ・ インターネットが多様な考え方、立場、経験と触れあえるツールであることを伝える
- ・ 学生のコンピュータの利用環境とスキルを調査し、情報弱者が出ないように配慮する
- ・ コンピュータの操作の苦手な学生に対して十分なオリエンテーションを行う
- ・ 授業について匿名で意見を投稿できる目安箱としての掲示板を用意する
- ・ 差別的や不適切な表現が含まれた発言がなされた場合、放置せずに意識を高める機会とする
- ・ 授業時間外の教材や課題を学生が選択できるように複数用意する
- ・ 海外の大学の研究者や学生と共同して授業を進める

注：本ガイドは、名古屋大学高等教育研究センター、情報メディア教育センター（2006）『ティップス先生からの7つの提案〈IT活用授業編〉』の内容を活用しています。

作成者：中井俊樹（名古屋大学高等教育研究センター）

作成日：2010年3月1日

URL：<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/>